

「ふくい観光ビジョン（案）」パブリックコメント意見まとめ

【魅力づくりについて】

No	意見概要	県の考え方
1	あわら温泉で提供される食に福井の魅力が感じられない。また、情緒あふれる街並みや楽しめる仕掛けがない。	<p>食は観光客に満足していただくための重要な要素であると考えています。観光客に気持ちよい消費をしていただくためにも、地元食材を活かした質の高い食の提供やバリエーションの充実等に取り組んでいきます。</p> <p>なお、あわら温泉においては、芦原の芸妓文化の体験企画を充実し、足湯や日帰り温泉など観光客が気軽に温泉に親しめる温泉街のまち歩きを促すとともに、宿泊と食事を分けたプランを提案するなど、多様な宿泊ニーズに応えるための取組みを市や事業者とともに進めていきます。</p>
2	個性を感じられる市町が少ない。空き店舗やシャッターの下りた店舗などが目立ち、面白そうな店も少なく、活気がなく、路地裏などを散策したいという気が起きない。	<p>本県にしかないオンリーワンのものを誘客等に活かすため、県民の皆様に参加していただきながら、各市町がもつ地域資源のストーリー（歴史的背景等）を発掘・発信し、個々の資源の価値を高めるとともに、ストーリーを体感してもらうモデルコースの提案、ガイドの養成等に取り組んでいきます。</p> <p>また、新幹線駅周辺において、食・自然・歴史等の体感施設や地元の特産品等の販売施設等を整備することなどにより、賑わいの創出、まち歩き促進を図ります。</p>
3	食文化や地場産業、生活文化など、福井県内にしかないオンリーワンのものの活用・県民の認識が不十分である。これらを活用・創出し、観光コンセプトを明確にしたストーリー性のあるツアーを組むなどの仕掛けづくりが必要。	
4	豊かな自然や食、歴史、生活文化などは観光客やUIターン人口を呼び込める要素である。これらを活かした誘客の仕掛けづくり、ソフト・ハード面の取り組みを充実することが最重要課題である。	

【受入環境について】

No	意見概要	県の考え方
5	観光施設によって、駐車場が不足している。福井市内などでは、団体客を乗せた観光バス用の駐車場が整備されていない。	観光客がストレスなく快適に旅行できるよう、観光施設の駐車場の整備、拡充をはじめとする観光インフラ整備を進めていきます。
6	越前海岸道路では道幅が狭く、落石の危険性も危惧されるなど、海岸線の観光インフラがソフト・ハード面で著しく劣っている。そのため、観光バスの通行量も極端に少ないのではないかと思う。	国道305号など海岸線の道路については、幅員が狭い区間の改良や斜面对策などに取り組んでいるところであり、今後も引き続き安全性を高めるための整備を進めていきます。 また、美しい海を誘客に活かすため、東尋坊における遊歩道の再整備や越前海岸の水仙群生地における景観づくりなどに取り組んでいきます。
7	県内は宿泊施設が少ない。ほとんどの観光客が福井市内のビジネスホテルかあわら温泉の旅館に宿泊していると思う。特に嶺南地域の宿泊施設を充実すべき。	本県の宿泊施設数は北陸三県で最も多いですが、その多数を占める旅館の稼働率が低くなっています。 嶺南地域の主要宿泊施設である民宿の中には、新鮮な地魚を使ったメニューや漁業体験などの特徴的なサービスを提供するところもあり、観光客のニーズを捉えた個室化、洋室化などのリニューアル支援等を通じて更なる利用促進を図ります。また、嶺南地域の自然を楽しみながら宿泊できるホテルやグランピング施設を誘致・整備するなど、宿泊施設のバリエーションの充実を図ります。
8	交通アクセスの充実をもっとすすめてほしい。ICカードの導入をすすめれば、地域住民にとっても便利になる。	二次交通の充実は、観光客に快適な旅行環境を提供するとともに、地域住民にとっても快適な暮らしにつながるものと考えています。 そのため、地域の鉄道や路線バスのダイヤの充実、新幹線駅から人気の観光地への直行・周遊バスの拡充、ICカード等による公共交通機関のキャッシュレス化等、各関係者と協議・調整しながら利便性を高める取り組みを進めていきます。

【情報発信・誘客施策について】

No	意見概要	県の考え方
9	東尋坊の再整備や恐竜博物館の機能拡充など、県の観光施策は嶺北地域中心に考えられることが多い。嶺南地域にももっとお金をかけて人を呼び込む施策を展開してほしい。	北陸新幹線の当面の終着駅が敦賀駅となる中で、将来的な大阪への延伸も見据え、嶺南地域ならではの魅力を活かし、さらなる誘客拡大を図る必要があると考えています。 そのため、サイクリングやトレイルなどのアクティビティの充実や、豊かな自然景観・食を活かした観光列車・レストランバスの運行など、嶺南地域ならではの魅力を最大活用し、人を呼び込む施策を展開します。
10	若い人が魅力を感じるような情報発信や観光コンテンツの充実に取り組むべき。	写真映えする観光資源の情報をSNSを活用しながら映像で訴えるなど、若い人の力を借りながら情報の発信・拡散を促していきます。 また、サブカルチャーやポップカルチャー等のイベントを開催するなど、若い人が魅力を感じるようなコンテンツを充実していきます。